

第1章 第1年次の研究の概要

本校では昨年度より、これからの激動の時代を担っていく子供たちに、小学生である今から『自分らしい生き方』を考えられるようにしたいという願いのもとで、「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」を研究主題に掲げ、3年間の研究を開始した。

本研究においては、「『自分らしい生き方を考える』とは、自分のよさや可能性への自信と人間性豊かな心とを持ち、自らの未来を切り拓いていこうとすることである。」と定義し、これまでの研究成果を生かしながら以下の視点を設定し、研究主題に迫ろうと考えた。

(1) 自分らしい学びをつくること

「自分らしい学びをつくる」とは、自ら問題に正対し、自分らしい解決方法を模索しながら道を切り拓き、問題を解決していこうとすることである。このような営みが、自己成長感や自己効力感などの肯定的な自己イメージにつながると考えた。子供が自らのよさや可能性に気づき、さらに自信を持てるようにするために、「自分らしい学びをつくること」を第1の視点とした。

(2) 心をひらくこと

「心をひらく」とは、心が耕され広く深くなっていくこと、そして他者に対してひらかれることである。『自分らしい生き方』は、自分勝手な生き方ではなく、社会や人とかかわりの中で個性を発揮しながらも他者と協調できて初めて実現するものである。豊かな人間性を育むと共に、社会や人とかかわる力を身に付けられるようにすることが大切であると考え「心をひらくこと」を第2の視点とした。

(3) 学びをもとに生き方を考えること

「学びをもとに生き方を考える」とは、学んだことを生かしたり、学んだことから自分の生き方を考えたりできるようにすることである。これは、上記の2視点を踏まえた上で実現することであり、研究主題に直接的に迫るものである。「学びをもとに生き方を考える」を、第1・第2の視点を踏まえた上での最終的なゴールととらえ、第3の視点とした。

研究の第1年次にあたる昨年度は、「子供が自分の学びを実感し、互いに心が響き合う授業の構想」という研究副主題を掲げ、各視点に関して授業像の構想などにあたった。

○ 「自分らしい学びをつくる」に関して

- ア 自分の学習に対するこだわりを強く持てるような授業を構想する
- イ 学びの実感が味わえるような授業を構想する
- ウ 内発的な意欲を高める支援を工夫する

○ 「心をひらく」に関して

- ア 心がゆさぶられる教材を開発したり活動を工夫したりする
- イ 他者とかかわりを重視した展開を工夫する
- ウ メタ認知的な問いかけをし、自己内対話の習慣化を図る

○ 「学びをもとに生き方を考える」に関して

- ア 生き方を考えることにつながる教材を開発する
- イ 生き方を考えることにつながる展開や支援を工夫する

その結果、次のようなことが分かってきた。

- ◇ 自分らしい学びをつくることができるようにするためには、こだわりを持てるようにしたり、強い学びの実感を味わえるようにしたりして授業を改善していくことが重要であること。
- ◇ 心をひらくことができるようにするためには、本物の体験など心に響く学習活動を工夫したり、様々な立場の人や友達などとかかわりを重視することが大切であること。
- ◇ 学びをもとに生き方を考えることについては、学んだことを生活の場面で生かせるようになること、学んだことから生き方そのものを考えられるようになることを受け、各教科等の特質に応じて迫り方を工夫しながら研究を進める必要があること。